

神門通り 100周年!

「神門通り」の命名と大鳥居の完成、松並木の整備から今年でちょうど100年がたちます。

宇迦橋

国鉄大社線大社駅の開業をきっかけに、当時の第19代島根県知事 高岡直吉（たかおかただよし）の主導によって、神門通りは整備されました。*

このとき、堀川に架かる橋（宇迦橋）に参道の入口としての意味をもたせるため、勢溜から北に延びる参道と同じ軸線を、堀川までまっすぐに伸ばすように計画されました。このため、宇迦橋は川の流に対してななめに架けられており、当時は「直線道」ともよばれていました。

*詳細は『新神門通り工事かわら版 14号』をご覧ください。

こだいしき のつと せいとう きぼうし ふ そうごん そ せつけい
『古代式に則り青銅の擬宝珠を付し荘厳を添ふべく設計せられ、
ちよくせんどう そ ちよくせん かきよう はす したが かきよう いち
直線道に添ひ直線に架橋せらるる筈にて、従って架橋の位置は
かわ りようがわ なな わけ か れい けんかほか れこーど
川の両側に斜めとなる訳にて、斯かる例は県下他になく、記録
破といふべき』 (山陰新聞 大正二年七月十七日)



大正3年の宇迦橋

宇迦橋 架け替えの歴史

大正3年に完成した宇迦橋は、昭和12年に架け替られ現在に至ります。



大正5年頃の宇迦橋（板橋）

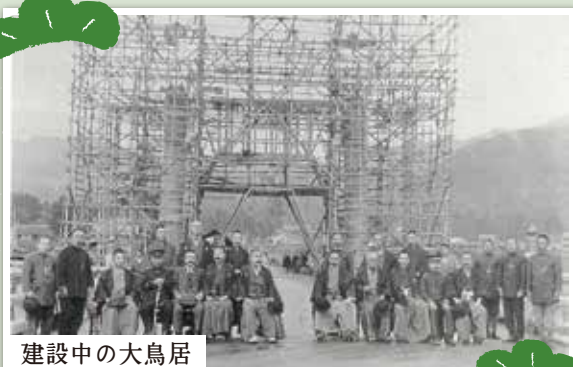


昭和初期の宇迦橋（土橋）



現在の宇迦橋

大鳥居と松並木



建設中の大鳥居

参詣道としての「神門通り」、そして出雲大社へつづく参道の入口としての「宇迦橋」の性格は、後に小林徳一郎氏によって寄進された「大鳥居」と、「松並木」280本によってより強いものになりました。

大鳥居は七五尺（22.7m）と当時としては日本一の高さを誇り、頂部には千家尊福公の筆になる額が掲げられています。



大鳥居そばに建てられた大鳥居と松並木の寄進をしした石碑

【資料】「出雲国大社観光史～参詣道から観光地へ～」大社史話会、「写真は語る大社の百年」大社町、「大社駅は、なぜ荒木のこの地に建設されたのか？～大社駅の建設と近代大社の町づくり～」荒木コミュニティセンター 山崎裕二、「大社の史話 第178号」

大正4年(1915年)11月7日の竣工式

11月の竣工式には、県知事を筆頭とした公式参列者、さらに一般参列者を合わせて約二千人が集まり、盛大に挙行されました。

この時までには道の命名を依頼されていた千家尊福公は、竣工式に臨む道すがら、宇迦橋に立ち北方を眺めながら「神門通り」と命名したとされています。



千家尊福公の自書が入った照明

出張 PR館!!

- ◆ 『神門通りおもてなし協同組合従業員研修会』
- ◆ 『富屋町秋葉神社 例祭』

神門通りおもてなし協同組合主催の従業員研修会、および富屋町秋葉神社例祭で、PR館が出張し、神門通りの成り立ちから現在の道づくりに至るまでの過程を説明させていただきました。



平成27年6月17日
神門通りおもてなし協同組合従業員研修会



平成27年6月22日
富屋町秋葉神社例祭

来館者の方にプレゼント中! お気軽にお問合せください。



ナビゲーターが
発信中!
「神門通り
PR館」で検索



Ameba Facebook twitter



出雲県土整備事務所 都市整備課からのお知らせ

おかげさまで2期工事区間の石畳舗装がほぼ完了しました。今回の工事は大鳥居から約60m手前(旅籠屋さんの北側)でストップしていますが、このことについて地元のみなさんから「なぜ大鳥居のところまでやらないのか。」という声をたくさん耳にします。これは、古くなった宇迦橋について将来架け替え等の工事が必要になった場合に、新しい橋の取り付けや工事に必要となるヤードの確保によって、道路上に影響が出たときの手戻りがないようにしているためです。

また、「電柱はいつなくなるのか。」という声もよく聞きます。現在、電線管理者(中国電力、NTTなど)が9月頃からの入線作業に向けた準備を進めており、年末までには既存の電柱を撤去できる予定です。電柱を撤去した後、残りの照明灯3基と石畳舗装を施工することになります。いろいろとご迷惑をおかけしますが、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。